

令和元年度
きらめきプロジェクト活動報告

プロジェクト立ち上げ当初から約12年間責任者を勤めてまいりました樗木晶子より、定年退職のご挨拶を申し上げます。

思いもかけない新型コロナウイルスのパンデミックとなり、2020年度の終わりはどこも送別会や卒業式もないまま、けじめなしで新しい年度が始まろうとしています。通称「きらめきプロジェクト」は男女にかかわらず、妊娠出産・育児・介護、自身の体調不良などで常勤は難しいが、キャリアを継続し発展させたいと望む医師・歯科医師が、原則3年間非常勤職として九州大学病院で勤務できる制度です。

2007年に始まった「きらめきプロジェクト」では、2020年までに94人の医師や歯科医師がこの制度を利用して、自己を磨くという大志をもって非常勤としてワークライフバランスを取りながらキャリアを継続してきました。

世の中では働き方改革というかけ声のもと男女にかかわらず医療人全体の働き方も再考されています。子育て中の母親だけでなく父親も少しスローダウンすることをトップや周りの人が許す現場があると、その伴侶である女性医療人も非常勤にならずにキャリアを続ける事ができるような仕組みもありません。実際、そのような対応をしている診療科や大学病院では女性が非常勤にならないで働ける場所も増えて見受けられます。子育ての山を乗り越えたら、二人とも再びパワーアップして働くことが前提です。

知識や技術が人の命や健康に直結する医療職においては、それらに加えて独り立ちできる医師になるための職業観を一番吸収できる若い時期に、家庭を持つと女性では妊娠・出産・育児と重なってしまいます。その時期に、男女とも十分に基礎をつくるトレーニングを受けることができる環境を提供するとともに自分たちでもそのような環境を作る努力をすることが必要です。

1990初頭、九州大学病院で結婚して子育てしながら助手として働くのが初めての事例であった私自身が3人の育児と共に常勤で循環器医とその後、保健学科で教員を続ける事ができたのは、まさに身近に両親がいて夫の支援も得ることができたからです。必ずしもその様に恵まれた環境にないカップルも沢山おられます。当時は結婚すれば女医は大学を辞める、大学で働きたければ独身を貫くという二者択一で、育児中の女医がわざわざ大学で働く必要はないという状況でした。ここで私が大学病院を辞しては、後輩の女性医師たちが、結婚すれば旧態依然と大学を辞めざるをえないという現状が続くに違いないし、何とか頑張らねばという気持ちがありました。幸い体調もよくなったので3人ともお産の数時間前まで勤務できましたし、産後も1ヶ月程度で職場復帰してキャンパス内にある杉の子保育園に仕事の合間に自転車を飛ばして授乳に何往復かしていました。有難いことに循環器内科では直営を免除してくれましたが、延長保育などの制度が無かったので職場を夕方6時前には出て、子供を連れて帰り、とにかく早く寝かしつけて職場でできなかった仕事をこなすという毎日でした。病棟の看護師さん達が良く理解者で搾乳のために部屋を使わせてくれ、授乳中はとてもお腹がすくので何気なくおやつをぽんとくれました。その後、循環器内科にも女性が入局してくれるようになり、結婚し育児をしながら辞めずに常勤で働く女性医師が育ってくれました。

私の経験からは独身の若い時代は働くことと自分の成長がまさに比例します。知識や技術を得るチャンスが豊富に与えられるほど、どんどん伸びてゆきます。個人差もあるので、それを働き方改革という名のもとに画一的に制限する必要は無いと思います。もちろん、非効率的にただただ働く必要はありませんが人生の中で頑張り尽くしたという経験は重要です。思う存分働ける独身の若い世代と子育てを終了者が、子育て世代の男女を共に支え、男性も家事・育児の役割を担える時間の余裕をもつことは、その後の男性の人生にとっても重要です。これが浸透すれば若い男女とも自分が家庭を持ったら安心して支えてもらえるし、子育てが終わった人は自分たちも支えてもらったから子育て中の人を支える、というよい循環ができるように思います。女性のみが働き方を縮小して夫の過剰労働を支えている現状はまだまだ、不完全で未熟な社会であると考えます。

どうぞ、皆様の力で将来は男女ともに家庭も社会も担える環境になるように、また、世代間で支え合い、高齢者がいつまでも生きがいを持ち続けることができるように、少しずつ変えていくことを願っております。本当に長い間、「きらめきプロジェクト」を支えていただき有りかとうございました。九州大学を定年するに当たって心から感謝申し上げます。皆様方が、益々、きらめかれることを願っております。 樗木 晶子

4月

*月例スタッフミーティング
*第10回 医学部学生交流会 開催
平成31年4月25日(木)
今年もランチョン形式で学生交流会を開催しました。今年はランチが足りなくなるほど沢山の学生が参加し、講演の後には多くの質問が寄せられました。先輩医師や歯科医師のお話を聴き、良い刺激になったようです。
*ジェンダー学講義(医学部)
(講師:九州大学附属可能な社会のための 決断科学センター 准教授 鏡谷 まりこ先生)



5月

*月例スタッフミーティング
*きらめき通信Vol.50発行
*第10回 歯学部学生交流会 開催
令和元年5月8日(水)
今年も昨年と同様に、歯学部でも、学生交流会を開催しました。
*ジェンダー学講義(歯学部)
(講師:佐賀大学医学部 身体構造機能学講座 准教授 神尾 雅也先生)
*性差医学入門講義(医学部)
(講師:国立病院機構九州がんセンター 乳腺科部長 橋本 えり子 先生)



6月

*月例スタッフミーティング
*性差医学入門講義(医学部)
(講師:医療法人たかやま内科病院 院長 雨宮 直子 先生)



7月

*きらめき通信Vol.51発行
*令和元年度きらめきプロジェクト 非常勤医師・非常勤歯科医師秋採用面接



8月

*月例スタッフミーティング
*スタッフ交流会
*内科グランドラウンド撮影



9月

*月例スタッフミーティング
*きらめき通信Vol.52発行

10月

*月例スタッフミーティング
*漢方セミナー

11月

*組織改組
*きらめき通信Vol.53発行
*第10回 講演会 開催
令和元年11月7日(木)
きらめきプロジェクト第10回講演会を開催しました。今回は、「医師の働き方いろいろ」というテーマで、社会医療法人財団白十字会 理事長の宮永 雅也先生と社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 包括診療部 部長の園田 幸生先生、当プロジェクトのプログラム責任者である樗木晶子先生にお話をいただきました。男女ともに働きやすい職場環境になるよう、それぞれの先生が尽力されてきた取り組みについてご講演いただき、参加者からは「目からウロコでした」といった感想を多くいただきました。



12月

*月例スタッフミーティング
*内科グランドラウンド撮影

1月

*きらめき通信Vol.54発行
*令和2年度きらめきプロジェクト 非常勤医師・非常勤歯科医師採用面接
*内科グランドラウンド撮影

2月

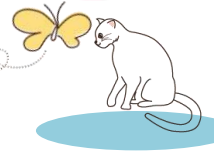
*月例スタッフミーティング

3月

*きらめき通信Vol.55発行
*第10回 スタッフ発表会 開催
発表者: 医師18名、歯科医師4名
事務補佐員3名
1年間の活動報告・紹介を行う事により、きらめきプロジェクトの活動意義を自分とともに確認・周知、これからのプロジェクトの在り方を考えるよい機会となっています。



九州大学病院 臨床教育研修センター
きらめきプロジェクト
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1
TEL・FAX: 092-642-5203
MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp
URL: https://www.kyudai-kirameki.com/



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します

卒後9年目の内科医師で、会社員の夫と3才の娘との3人家族です。初期研修・後期研修を経て5年目で大学院に入学。昨年3月に卒業となりましたが、研究成果が出せず学位取得に至らなかったこと、また、当時2才の子供が病弱で常勤復帰する自信がなかったこともあり、今年度からきらめきプロジェクトに所属させていただきました。

きらめきプロジェクトでは、週2回の大学病院勤務で自科の検査業務および外来を担当し、短時間ではありますが専門性を活かすことができ非常に嬉しく感じています。また、研究室との距離も近く、少しの空き時間で実験を進めることができるのもありがたいです。

3才になった娘はそれまでがうそのようにめっきり熱を出さなくなり、振り返ると今年度は久しぶりに“自分の時間を確保できた”と思える1年間でした。子供が小さい時期に気持ちにゆとりの持てる職場に巡り会えたことが一番の幸運で、今年は保育園の行事等にも積極的に関わって間近で成長を見ることができました。自分の裁量で仕事や研究をできたことも嬉しいし、色々と話をする余裕もできて、主人ともども家庭人としても少しは成長できた1年だったように思います。



研究に関しては、時間があるからといってうまく行くわけではないということを痛感した年でもありましたが、理解ある家族と理解ある職場のおかげで折角得たチャンスなので、気が済むまでやってみようと思っています。

私は卒後15年目の外科医師です。現在6歳児の育児中で、今年度よりきらめきプロジェクトに所属しております。卒後3年目まで大学病院に勤務後、大学院に進学して医学博士号を取得し、卒後8年目まで関連病院で勤務しておりました。その後、結婚を機に夫の職場がある関東へ転居し、出産後もすぐに常勤のフルタイムでの仕事復帰をしましたが、なかなか子育てと家事の両立が難しく、小さい我が子のためにほとんど時間を割くことができないことで自分を責める日々が続いていました。卒後12年目に大学へ戻る機会をいただき、関東に主人を残して子供と二人で実家のある福岡に帰ってきました。約1年半は医学研究院の講座の助教としての仕事をしながら外科診療に携わっておりましたが、今年度より外科への異動となり、本格的な外科診療と子育ての両立は難しいため、きらめきプロジェクトへの応募に至りました。現在は、週4日の大学病院勤務（週2日は外科外来、週2日は手術助手やカンファレンスなど）、週1日は関連病院の外科外来で勤務しております。このように専門的診療を継続することができるのは、診療グループの上司の理解と配慮、医局の先生方のサポートのお陰であることを痛感しており、感謝の念に堪えません。

先日、子供が幼稚園の卒園式を迎えることができました。母としても外科医師としても未熟な面が多々あり日々苦悩しておりますが、子供と過ごす時間が私にとっての一番のエネルギー源となっております。



これからも、育児と仕事の両立を目指しつつ日々精進していきたいです。最後に、きらめきプロジェクトに関する皆様にも改めて心から感謝申し上げます。

ときどき、子供が私の似顔絵や手紙を書いたり、朝の別れ際に「ママ、頑張れっ!」とハイタッチしてくれたりします。いつの間にか、我が子もこんなに逞しくなって……。疲れている時、弱気になっている時、子供から励まされると「もちろん、頑張るよ。あなたのママだからねっ!」と前向きになれる。